

一	人	で
就	職	す
る	勇	気



入社一期生の意外なメリットとデメリット

- ものすごく大切にされる。
- 会社まるごと全員に歓迎される。
- 失敗を許してもらえる。
- みんなが丁寧に教え、また助けてくれる。
- 会社の新卒採用の企業文化の一役になれる。
- 社歴に残してもらえる。
- 成人式まで面倒を見てくれる。
- 全てが初めてなので何事も新鮮だ。
- これからのモデル的な社員となる。
- 全社員に注目されイキイキする。
- 期待が大きすぎて肩の荷が重い。
- 覚えることが多すぎて困る。
- 初めてなので受入れ環境に未熟な事もある。
- 注目され過ぎて気がめいる。
- 社員の皆さんが初めてで接し方にぎこちがない。
- 孤独感も多少出る。
- 相談相手がいなくさみしい。
- プライベートな事を皆に聞かれる。
- 新人がいないために1年間が長く感じる。
- 新入社員教育で話が多く理解ができない。
- 大切にされ過ぎて責任を感じてしまう。

会社は創業者が色々な想いを持って作るのが最初の始まりです。

創業した人（社長）は理想に燃え、夢を持ち、手持ちのお金を全部使って会社を始めます。最初は知り合いや家族を社員としながら少しづつ大きくなると、経験者など途中採用を繰り返しながら仕事をこなしてゆきます。

そして、いよいよ皆さん（新規学校卒業者採用）を迎える時期がやってきます。でも、ここが一番迷ったりする時期になります。

「それは何故か」ここが皆さんにとって最も重要なポイントとなります。実は会社にとって初めて新規卒業生を迎えるためには、最低限度2～3年もかけて会社環境を整えなければなりません。そして、近い将来の豊かな会社を約束しなければなりません。

そこで、私たちは、①福利厚生（給与・保険・住い・等々）の整備

②指導教育（一般、社会、専門、生活教育・自己啓発及びキャリアコンサル等々）

③企業環境（入社式・歓迎会等々）などを準備してきました。

しかしながら、他社の真似はできないこともあり、懸命に準備をしても完璧な受け入れ環境はなかなかできません。

実は本音の話ですが、皆さんを採用してから足りないことを気が付くことも多いのです。本当にごめんなさい。

でも、どこの会社でも第一期生を受け入れる時は、精一杯の気持ちを最大限に込めて迎えようとします。このようにして皆さんを迎えるのですが、ワクワクとドキドキとハラハラの中で一緒に成長していくのも会社の現実です。



会社は創業者が想いを持って創立するのが最初の始まりです。どんな会社も創業期は零細企業から始まります。今も昔も創業から3～4年で半分以上が倒産や廃業になります。それだけ会社が生き残るのは大変な事なのです。

今日本には株式会社が約225万2千社で、その内大企業は3千8百社です。なんと、99.8%が中小企業で、その内内社は東京に51.6%・大阪11.2%・愛知5.8%・神奈川4.7%にあります。

そして、中小企業と大企業の違いは業種によって違いますが、製造業、建設業、運輸業などは、資本金の額、または出資の総額が3億円以下で従業員の数が300人以下です。サービス業、小売業などは資本金の額、または出資の総額が5千万円以下で従業員の数が100人または50人以下です。

皆さんにとって会社を選ぶのは大変な思いをするのは、このような現実だからです。どんなにインターネットや企業便覧で調べても迷うばかりで決められないのが現実なのです。